



左/足掛を壁に建つ直観しい棚、上/リビングから一転、落ち着いた調性の和室。一貫した木と見飽かぬ白は、新素材のモイス。下/設計を提出した次男の成典さん（左）と姉妹林業の家族を創つ三男の成典さん。



ノックオーバーハウスリビング

周辺で林業に専ら取り組む三男林産株式会社を母体し、三妻の木で建てた家も建築する。老舗園芸店扱いの木の家業とファットレード建築も務めるアンテナショップも開設して、集産材の発信にも取り組んでいる。建築単価 65万円。■東京都大田区中延3-30-1 TEL:059-98-0714

http://www.sanemisan.com

## 四世代家族が団らんするために 自社林の木で建てた離れ家

坂さんの家 前山出市

設計・材料・施工/ノックオーバーハウスリビング



窓とテーブルがあそびあえるリビング。林には現代建築が息づき始めるから離れ家。

山深い開町で、古くから林業を営み取さん一家。幼い頃から林業に携わる父の背中を見て育った三兄弟は、長男と三男が家を、次男は大阪で建築家に、それぞれ家づくりと関わる道を選んだ。

母屋に寄り添うように増築された離れは、次男・成典さんと(25)の設計で、自社林の木を音む屋産材を豊富に用いながら、都会のトレンドが細部に感じ込まれている。

「母屋には母屋と両親が住んでますが、私たち三人兄弟それぞれが家族が集まるお手伝い、私も近所木には関わっている、昔が原田地良く過ごせる空間をつくりたかったんです」

そこで三兄弟は林業家の技術と建築家の知識を持ち寄り、可能な限り自由の木を用いて離れを建てたことにした。使えぬモダルハウスとしても使えぬように、和室は真壁造りのさき

から天井に、吹き抜けのリビングは大塚の勾配天井にと、意匠をたがえている。

リビング壁面には、断水栓と吸湿機能を備えた「モイス」と呼ばれる新素材が用いられた。シンクイロ(細い釘)で壁面に止める準準施工で、シフトハスの心配がない。この白く柔らかな風合いの壁が、木をふんだんに使った室内に清々しさを与えている。

「林水産といえども、自社の木だけで家を建てるのはコスト的に難しいのが現状です。それでももう少しずつ使用率を高め、最終の山林を守ろうと模索しているんです」

そう語る三男の成典さん(31)は、今年かけがえのないパトリオナリを築き、林業経営に一層熱が入る。今後、ますます賑わいを増すであろう取一家の団らんには、やはり限らぬあふれる木の笑顔がふさぎわしい。